

事務事業名	社会教育指導員配置事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連					
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課			
施策名	21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一			
基本事業名	77	学習・スポーツの啓発		担当者名	荒牧 聡	電話番号 (内線)	096-248-5555 1503			
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 01	事業	社会教育総務費				
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 昭和48 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) 社会教育を推進するため、社会教育指導員2名を配置する。 (業務の内容) 社会教育の推進を図るため、各コミュニティ及び中央公民館への指導及び助言を行う。また成人教育、青少年教育、家庭教育に関して指導を行う。 (予算の内訳) 報酬(85,500円×12ヶ月×2名)						総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)		0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間		
							人件費計 (B)		0	
							トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

- ①生涯学習の拠点2施設(御代志市民センター・ヴィーブル)に各1名配置
 ②各指導員は、各コミュニティ・中央公民館活動、成人・青少年・家庭教育への指導助言を行った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(生涯学習関係事業参加者)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

生涯学習事業に参加する市民が、よりよい活動ができるようになる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

生涯学習事業に参加する市民が増えていく。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 指導・助言のための勤務日数	日
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア よりよい活動ができるようになった市民の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 生涯学習事業に参加している市民の数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	1,026	1,026
			事業費計 (A)	千円	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	1,026	1,026
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	180	180	180	180	180	180	180	
		人件費計 (B)	千円	450	450	715	715	715	715	715	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	2,502	2,502	2,767	2,767	2,767	1,741	1,741	
活動指標		アイウ	日	360	360	360	360	180	180	180	
		アイウ									
対象指標		アイウ	人	52000	52500	53000	53500	54000	54500	55000	
		アイウ									
成果指標		アイウ	人	未集計	未集計	未集計	5350	5400	5450	5500	
		アイウ									
上位成果指標		アイウ	人	未集計	未集計	未集計	10700	10800	10900	11000	
		アイウ									

合志市

事務事業名	社会教育指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ①旧合志町は昭和50年8月、旧西合志町は昭和48年7月、社会教育の指導、相談を受け持つため各町1名配置された。
 ②平成18年2月に両町合併後、旧町異なる生涯学習の指導、相談のため、2名配置となった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
 合併前、旧両町とも人口が急激に増加し続け、生涯学習の充実を求める住民ニーズは増大していった。
 各町ともそれに応じた拠点施設を整備し、市民も生涯学習活動を活発に行うことになった。
 近年は次第に高齢化が進み、リタイア世代の生涯学習活動が活発になり、この世代のニーズを取り入れた内容を充実していく状況となっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 住民からは、子どもへの伝承活動や家庭教育に関する活動をもっと行うように、との意見が出ている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 社会教育指導員の助言により、市民がよりよい生涯学習活動が行えるので、政策と結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 社会教育指導員により、特色ある生涯学習活動行われるので、よりよい生涯学習の推進に合致するため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状では適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 合併前、両町の生涯学習活動は、それぞれの歴史、伝統があり、そのもとで行われてきた。 合併後も急激な同一化は困難と思われるが、次第に収斂させていく必要もあり、そこでは2人配置を見直すことも出来る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ①生涯学習の住民ニーズを捕らえることが難しくなる。 ②生涯学習活動の相談を受け、アドバイスすることが難しくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 職員の経験や力量によって左右される事業であるため、指導員の資質向上のみにより成果が上がっていくと思われる。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 職員の経験や力量によって左右される事業であるため、指導員の資質向上のみにより成果が上がっていくと思われる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 嘱託職員によって事業を行っており、人件費も必要最小限度であるため、削減は困難である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 指導員は全体の利益のため業務を行っているため、公平公正を旨としている。

合志市

事務事業名	社会教育指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

合併前、嘱託職員として旧町に1名づつ配置されていたが、合併後にもそれぞれの生涯学習活動の指導助言を行っていた。

→ 今後は、次第に生涯活動の方向をまとめ、市の生涯学習計画が策定されていく段階で、2名配置を見直すことにしたい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

合併前、嘱託職員として旧町に1名づつ配置されていたが、合併後にもそれぞれの生涯学習活動の指導助言を行っていた。

今後は、次第に生涯活動の方向をまとめ、市の生涯学習計画が策定されていく段階で、2名配置を見直すことにしたい。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

旧町にはそれぞれ特色ある生涯学習活動が展開されていたので、今後の方向を打ち出すのに時間を要する。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項